

本論 5:17-7:12 (「律法と預言者」による囲い込み: 5:17と7:12)

本論は三つの部分からなる。冒頭にイエスと律法についての総括的原則 5:17-20

主題:「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義に勝っていないければ、あなたがたは決して天の国に入ることは出来ない」(20節)

1. 本論第一部: 律法学者の義 (六つの対立命題) 5:21-48

1) 何故「対立命題」と呼ばれてきたのか。→ イエスの語り方から

2) 本来の命題は: 各対立命題に付随する敷衍、説明部分を除いたもの (便宜上通し番号をつける)。

①「あなた方も聞いているとおおり、昔の人は『殺すな。人を殺したものは裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。兄弟に腹を立てるものは誰でも裁きを受ける」(5:21-23)

②「あなた方も聞いているとおおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。みだらな思いで他の人の妻を見るものは誰でも、すでに心の中でその女を犯したのである」(27-28)。

③「妻を離縁するものは離縁状を渡せ」と命じられている。しかしわたしは言っておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる」(31-32)。

④「また、あなた方も聞いているとおおり、『昔の人は偽りの誓いを立てるな。主にたいして誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、わたしは言っておく、一切誓いを立ててはならない」(33-34)。

⑤「あなた方も聞いているとおおり、『目には目を歯に歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない」(38-39)

⑥「あなたがたも聞いているとおおり、『隣人を愛し敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する人者のために祈りなさい」(43-44)

3) マタイの意図は

この六つの対立命題は、マタイの構成による感が強い(ルカの平地の説教と比較せよ)。各命題の主張の激しさが律法否定の印象を与えかねないとしても、先の包括的な原則からマタイの考えは明らか。むしろ各命題部分は、後半の対立命題によって意味が示され、それがまた「律法学者の義」に勝る弟子たちのあり方を示す、と言うのがマタイの考え。

4) 個々の対立命題の要点

「殺してはならない」

「姦淫するな」

「離縁の禁止」

「一切誓うな」

「報復の終わり」

「敵を愛せよ」